第32回国保・後期高齢者	資料 No.4-1
令和8年10月26日（月）	

令和7年度
「国保連合会保健事業支援・評価委員会」
報告会
（令和7年12月19日開催）

実施結果報告

令和8年3月

国民健康保険中央会
保健福祉部保健事業課

令和7年度「国保連合会保健事業支援･評価委員会」 報告会
概要

1. 日時　　：令和7年12月19日（金） 13時30分から16時55分
2. 研修会形式　：事前Web配信、Zoomによるウェビナー形式
3. 主催　　：国民健康保険中央会
4. 対象者　　：国保連合会保健事業支援･評価委員会、国保連合会職員
5. 参加者　　：第2部/支援・評価委員会80名・連合会191名　第3部/連合会191名
6. アンケート回答数：支援･評価委員会39、連合会46（47人※1）
7. 日程

＜第1部＞ 事前配信　令和7年12月5日（金）から配信
対象者：国保連合会保健事業支援・評価委員会委員、国保連合会担当者

－	行政説明（20分） 厚生労働省保険局 国民健康保険課
－	行政説明（20分） 厚生労働省保険局 高齢者医療課
－	中央会からの報告（10分） 「令和6年度報告書から読むヘルスサポート事業の取組状況と令和7年度報告書の今後の方向性について　～令和6年度報告書より～」 国民健康保険中央会 保健事業課

＜第2部＞ Web会議　令和7年12月19日（金）13:30開始
対象者：国保連合会保健事業支援・評価委員会委員、国保連合会担当者

13:30	開会・主催者挨拶（5分） 国民健康保険中央会 理事長
13:35	来賓挨拶（5分） 厚生労働省保険局 国民健康保険課長
13:40	国保・後期高齢者ヘルスサポート事業運営委員会委員長挨拶（5分） 公益財団法人日本建築衛生管理教育センター理事長 慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室客員教授　　宇都宮 啓 氏
13:45	リレートーク（50分） テーマ 「支援・評価委員会において、助言する際に大切にしていること・工夫していること」 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻総合ヘルスプロモーション科教授 樺山　舞　氏 帝京大学大学院公衆衛生学研究科教授・研究科長　　福田 吉治 氏 国立保健医療科学院生涯健康研究部特任研究官　　横山 徹爾 氏 青森県立保健大学理事長・学長 大学院健康科学研究科保健・医療・福祉政策システム領域教授 吉池 信男 氏 （コーディネーター） 国保・後期高齢者ヘルスサポート事業運営委員会委員長 公益財団法人日本建築衛生管理教育センター理事長 慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室客員教授　　宇都宮 啓 氏
14:35	意見交換の進め方の説明（5分）
14:40	意見交換（60 分） 1グループ 5～6都道府県、全8グループで実施 テーマ 「リレートークを受けて、これからの支援において工夫できること、大切にすべきこと、データヘルス計画中間評価に向けた支援・評価委員会における支援について」
15:40	第2部 閉会

＜第3部＞ Web会議　令和7年12月19日（金）15:50開始
対象者：国保連合会担当者

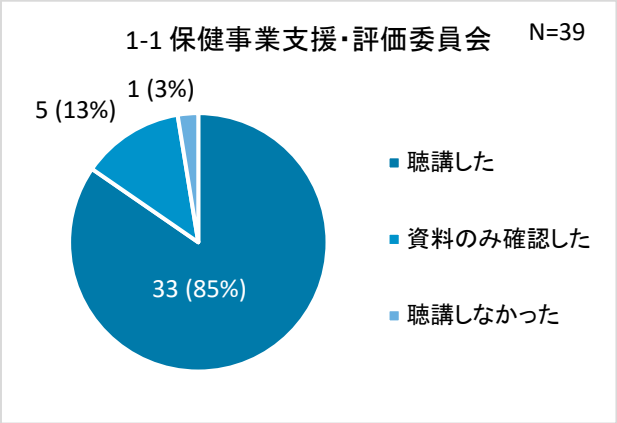
15:50	情報交換の進め方の説明（5分）
15:55	情報交換（60 分） 1グループ 5～6都道府県、全8グループで実施 テーマ 「国保連合会保健事業支援・評価委員会の運営に関する現状や課題について」
16:55	第3部 閉会

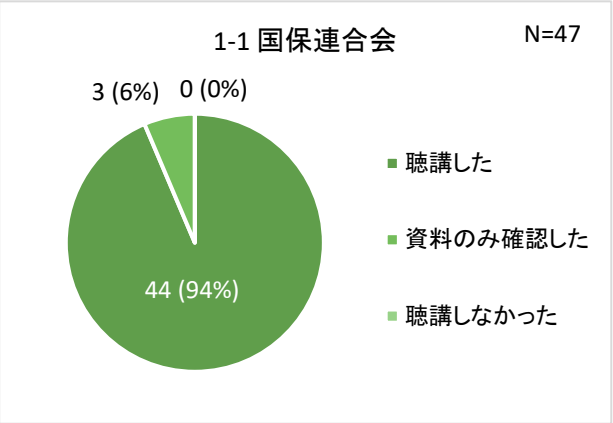
※１：回答した人数（同一連合会から複数回答があったもの）

令和7年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」 報告会 （アンケート結果）

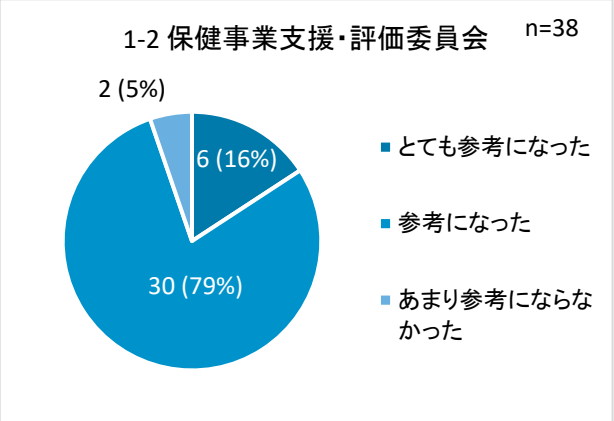
1．行政説明
厚生労働省保険局 国民健康保険課

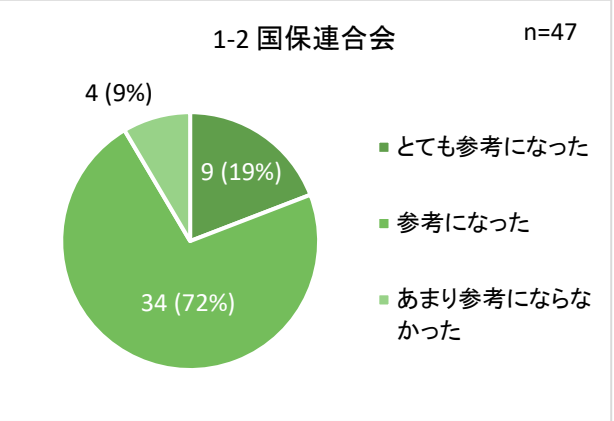
視聴の有無について





説明について





※N：アンケート回答数（支援・評価委員会、国保連合会別）
n：視聴の有無で「聴講しなかった」とした回答を除いた数

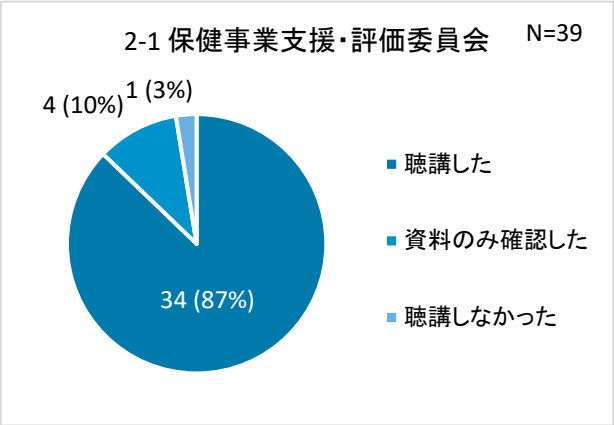
主な意見・感想

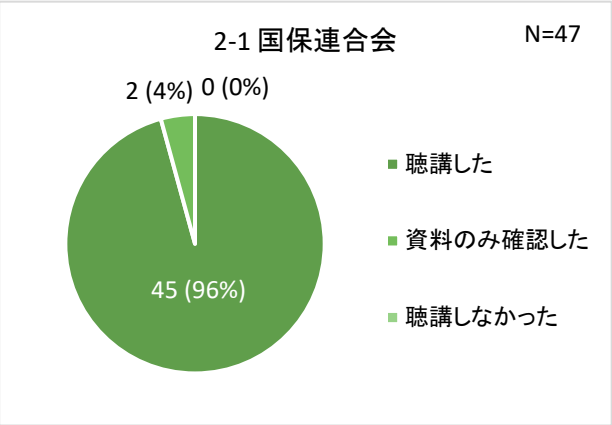
属性	意見・感想
保健事業支援・評価委員会（10）	世帯構成の変化や人口構成の推移から、効果的に保健事業を組み立て、あらためてＰＤＣＡを回すことの重要性を認識できた。
	国保の現状と最近の動向を、制度面と現場運営の両面から整理していただき、理解が深まった。
	国保加入者における低所得者割合が予想よりも高く、未受診者や治療中断者に対する対策において問題となる可能性の高い事を再認した。
国保連合会（7）	国保が抱える構造的課題やその拡大と変化、最近の動向について学び、構造的課題を勘案しつつ、評価していく必要があると思った。
	事前傍聴であれば、時間の融通が利き視聴できる時間はあるので、もう少し丁寧な説明をお願いしたい。

令和7年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」 報告会 （アンケート結果）

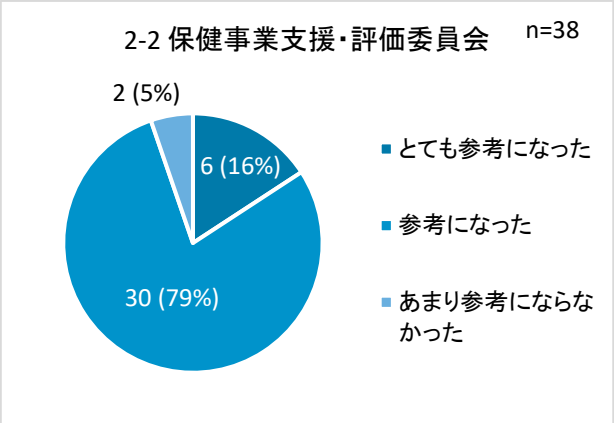
2．行政説明
厚生労働省保険局 高齢者医療課

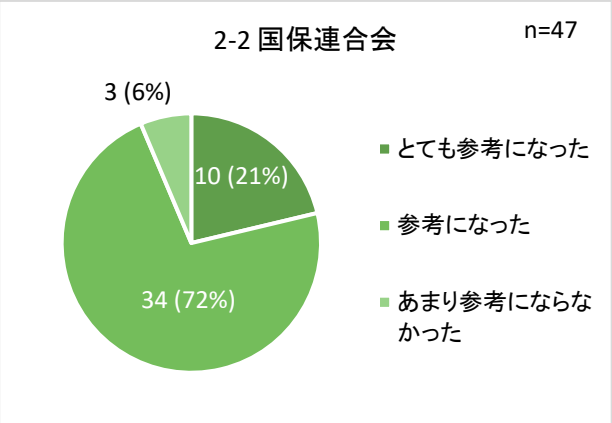
視聴の有無について





説明について





※ N：アンケート回答数（支援・評価委員会、国保連合会別）
n：視聴の有無で「聴講しなかった」とした回答を除いた数

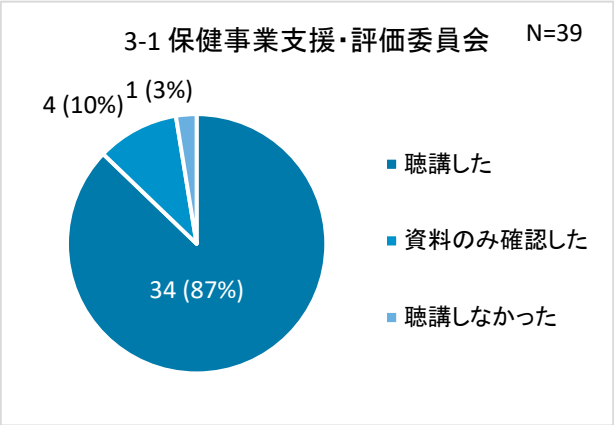
主な意見・感想

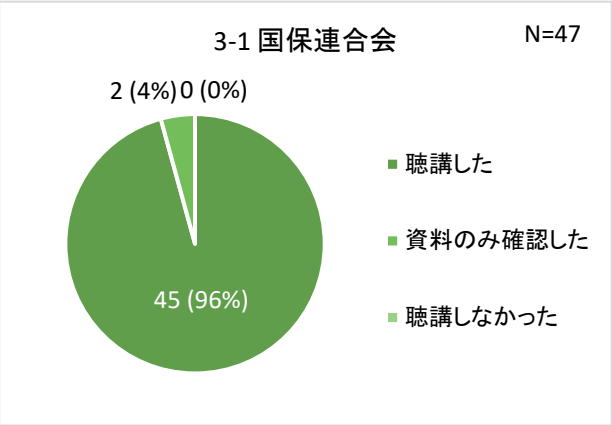
属性	意見・感想
保健事業支援・評価委員会（8）	高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施の重要性と、広域連合が市町村に委託する枠組みについて資料だけでは理解しにくいものが聴講により理解できた。 健診情報等を活用した対象者の抽出条件や抽出基準の設定状況は初めて触れた話題だったので参考になった。
	PDCAサイクルで展開する取り組みと評価の実際について、よりイメージしやすかったため、本県の地域性に引き寄せて考えていきたい。
	広域連合による具体的な支援内容が俯瞰できる資料構成であり、わかりやすいと思う。
国保連合会（4）	前半の高齢者保健事業については、知っている内容が多かったが、後半の第3期データヘルス計画の中間評価に向けた取組については、初めて聴くことが多かった。
	後期高齢者保健事業の中間評価に向けて、データヘルス計画中間評価に向けたヒアリングなどを実施し、中間評価を実施するにあたり参考となる情報を取りまとめると情報があったため、参考にしたいと思った。

令和7年度「国保連合会保健事業支援･評価委員会」 報告会 （アンケート結果）

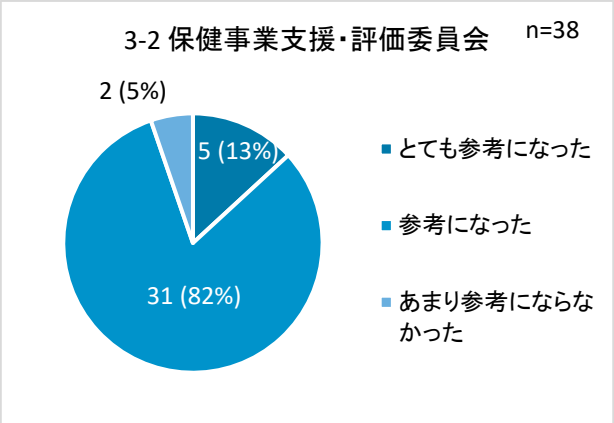
３．中央会からの報告
国民健康保険中央会 保健事業課

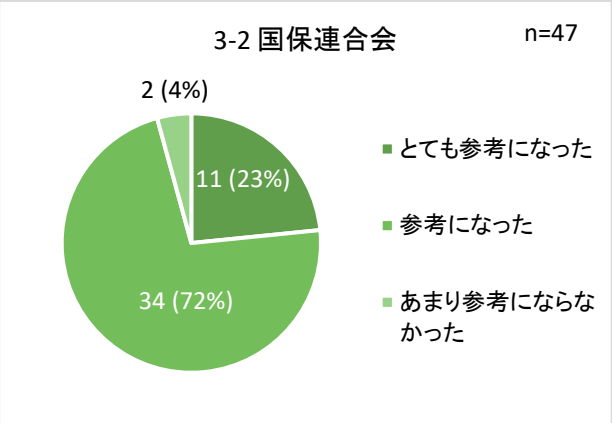
視聴の有無について





説明について





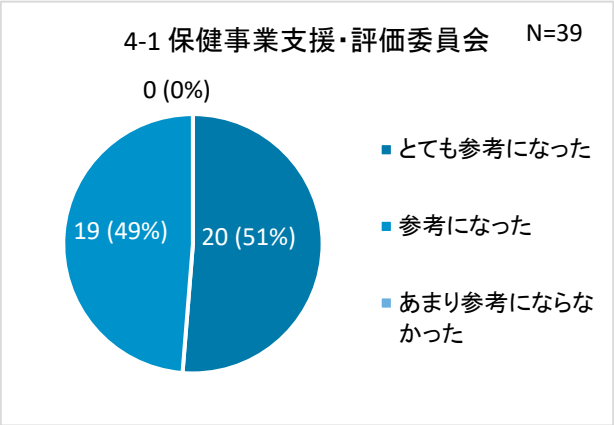
※ N：アンケート回答数（支援・評価委員会、国保連合会別）
n：視聴の有無で「聴講しなかった」とした回答を除いた数

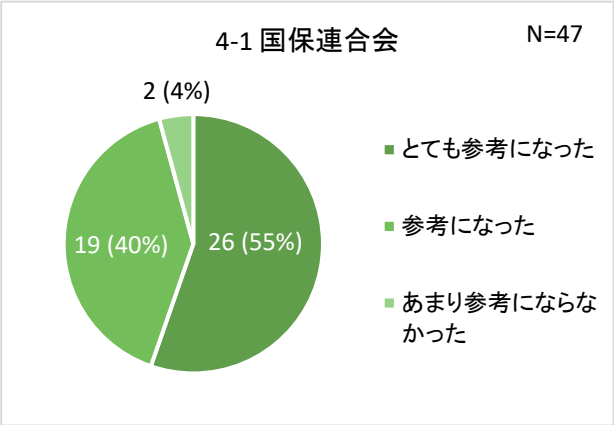
主な意見・感想

属性	意見・感想
保健事業支援・評価委員会（9）	できれば、各都道府県の委員会の開催状況や人数、職種等、連合会が感じている問題点等一覧表になっていると実態がわかりやすいと感じた。
	保険者支援における課題については、本県の課題と重なる部分が多かったため、ぜひ、支援方法について参考にさせていただきながら進めていきたいと思う。
	保険者支援にあたっての課題・効果的手法等は、当地域との共通性もあり、活動を振り返りながら思考を整理できた。
	市町村の担当者の異動により知識や経験が醸成されないこと、保険者間の取り組みや力量に格差があること等、課題が共通していることを改めて認識した。
国保連合会（6）	国保連合会の支援の方向性や、国保連合会の課題・得た効果や、支援・評価委員会が抱えている課題・効果について改めて考える機会となった。
	他県でも保険者同士の情報共有の機会を持つことが効果的な支援であったと報告されているため，本県でも今後積極的に取り組んでいきたいと思った。

４．リレートーク

講演について





※Ｎ：アンケート回答数（支援・評価委員会、国保連合会別）

主な意見・感想

属性	意見・感想
保健事業支援・評価委員会（20）	評価においては、アウトカムからはじめ、ストラクチャー・プロセスは後回しにする工夫もあるということを再確認できた。 演習と講義を組み合わせながら展開する具体的な研修の進め方について、とても参考になった。ぜひ、本県の研修会実施の際に参考にさせていただきたいと思う。
	講師の先生方から支援の工夫や心がけていること等について具体的な話（小規模自治体を意識し、「これでいい」と思えるように後押しする等）を聞け、とても参考になった。
	各先生方が、支援・評価委員会で助言するときに大切にされている思いや考え方を知ることができ、とても参考になった。 また、横山先生の中間評価についてのご説明がとても分かりやすく、参考になった。 国保連合会とも相談しながら、保険者支援を進めていきたいと思う。
	支援・評価委員会と市町の保険者の間の距離間、接し方、モチベーションを高める技法など参考になった。
	埼玉県の保健管内ごとに支援・評価委員会をするのは参考になり、当県でも試してみてはどうかと思った。各スピーカーの発表にある支援・評価委員会やデータヘルス計画の策定や運用に関する課題認識は共感できた。
	リレートークのスタイルが講義形式より実際的な意見展開であり理解しやすかった。
	講師の先生方から、具体的な支援内容や課題、感じていることを聞かせていただくことで、自自治体との共通項や参考にしたい内容があり、次のプログラムの意見交換がしやすかった。
	トークで採り上げられたトピックが幅広く、盛り沢山であったため、お一人あたりの発言時間が短いのが気になった。 テーマを更に限定・もしくはリレートークでない形式でもよいのではないかと感じた。
	資料の共有をしていただければ、もっと理解が深まったのではと思う。

国保連合会（28）	それぞれ4名の委員が支援をする上で、心がけていることや、それぞれの都道府県連合会で実施している事業スケジュールについて知ることができ、とても参考になった。
	実際に委員をされている先生のお話を聞けたことで、事務局側としても委員にとっても、助言の考え方や運営の工夫等、大変参考になったのではないかと感じた。今年度は代表委員のみ参加していたが、次年度以降、他委員にも参加の声掛けをしてみたい。
	中間評価に向けて、どのように支援を行っていくのか知見を得ることができた。次年度に向けて方向性を今年度中に委員とともに整理を行っていきたい。
	このような形で、先生方のお考えを聴く機会は今までなかったので、新鮮で、興味深かった。国保連合会職員も悩みを抱えているが、委員の先生方も同様な悩みを持っているのだと安心した。
	リレートークでお話しいただいた「心がけていること」がとても参考になった。
	支援・評価委員会が目指すものを整理いただき、改めて考える機会となった。委員会の運営・実施状況は各地域で違いがあるが、各先生方から生の声として工夫や心がけていることを聞くことができ、大変参考になった。リレートークという形式も親近感があり、とても良かったと思う。
	先生方が日頃考えていらっしゃることを聞かせていただき参考になった。
	全国でもメインの先生方のリレートークは、掛け合いなどが分かり易く、今後もお願いしたい。
	・毎年、担当者が替わり、保健事業のPDCAが展開できない課題はどこも抱えており、そのためにも研修（講義＋演習型）は毎年開催した方がよいとのご意見は参考になった。 ・委員目線での支援する際に心がけておられること等が伺えてよかった。各県の委員がその場で、お互いの事業について質疑応答されるので、事例発表形式よりも興味深く聞くことができた。 ・先生方の保健所がかかわるべきという意見が印象的であり、すぐに変化を求めず少しづつ前に進めばよい、現場の「おもしろくない」を「おもしろい」にしたいという内容に励まされた。 ・説明内容及び資料から、各委員の皆様が丁寧に保険者支援に向き合っておられるのがよくわかった。 ・他県の支援の形式や工夫されていることが詳しく聞けて良かった。委員同士の質疑応答もあり、自分にはない視点からも話を伺え勉強になった。
	先生方のキャラクターの影響もあるかもしれませんが、講演よりとても興味深く、参考になった。今後も続けていただきたい。
	本県も支援・評価委員会の活用保険者が少ないため、吉池先生の青森県の状況が大変参考になった。 また、来年度から支援・評価委員会を集団支援形式で実施したく検討を進めているため、横山先生の研修会で工夫していることの内容が大変参考になった。
	福田先生にお示しいただいた、東京・埼玉の年間スケジュールを、次年度のスケジュールを立てる上で参考にさせていただきたい。4人の先生方の支援の方向性や、研修の進め方をお聞きして、本県で行っていることと他県のものが大きく変わらないことを再認識し、自信が持てた。
	資料が手元にある状態で聞きたかった。当日配布でもいいので、事前に資料を展開してもらえたらと思う。
	総論的なことが多く、具体的な例がお伺いできなかった。 次年度は、支援からつながった結果等をテーマにしていただきたい。

令和7年度「国保連合会保健事業支援･評価委員会」報告会（アンケート結果）

５．意見交換について

主な意見・感想

※自由記載形式で回答のあった内容を集計作業にて分類し、代表的な意見の一部を抽出したもの。

分類	属性	意見・感想
他保険者との情報共有（26）	保健事業支援・評価委員会（16）	比較的同規模の地域でも課題が異なり、その対策に向けた方法論も異なることが理解できた。また、現場の資料作成の負担などを軽減することも各地域が工夫していることが参考になった。
		支援が積みあがっていかない構造は問題であり、支援カルテやポータルサイト等の取組は興味深い提案であった。
		支援の申請が少ない自治体があったり、訪問支援を実施している自治体があったりと、様々な状況があることを知ることができ、大変勉強になった。
		他県の具体的な取組みが分かり、委員としての対応についても意見交換を通して、多くの示唆を得ることができた。
		各都道府県の特徴を大切にされながら、評価委員会の構成、取り組みの工夫がなされており、大変勉強になった。工夫点で、本県に取り入れられそうなものは、ぜひ、参考にさせていただきたいと思う。
		他県の事例で各自治体の担当者は定期的に人事異動があるが、引き継がれないことがあると聞いたので、自県内は後任への引継ぎを十分にするようすすめたいと思った。
	国保連合会（10）	意見交換では、支援を希望しない保険者への対応などについてどのように考えているかなど、委員がどのように考えているか様々な意見を知れてよかった。
		支援・評価委員会の開催方法について、各都道府県で保険者数や委員の構成状況の違いによって差が生じており、各連合会で状況に合わせた支援を実施していることを感じた。 また、データヘルス計画中間評価等の支援に対する他県の取組みから反映できることもあると思うので、参考にしたい。
		中間評価等について他県の動向を知る良い機会となった。 他県からいただいた回答を参考に、次年度の取組を検討していきたい。
グループ分け（8）	保健事業支援・評価委員会（1）	人口規模の違いが大きく、参考にできない点があった。
	国保連合会（7）	市町村数が近い都道府県でグループ編成されていたため、事業内容等とても参考になった。
		保険者数の規模が同じ県と意見交換ができ、現実的で取り組んでみたい工夫等を聞くことができた。
		今回は市町村の規模別でのグループ分けとお聞きしたが、評価委員会がどんな委員構成でどんな支援をしているかが共通しているほうが、委員の先生同士も、連合会同士も、話がしやすいと思った。

テーマと構成（7）	保健事業支援・評価委員会（2）	事前アンケートだけではなく、テーマと進行手順や論点等が設定されていれば、準備ができて、より効率的に議論が深まったのではないかと思った。
	国保連合会（5）	司会の方が上手く回してくれたのでスムーズに意見交換できたが、テーマの範囲が広すぎると感じた。
		第2.3部とも事前アンケートに記載がない県が多く、自県が聞きたいことに対しての状況を知ることはできたが、物足りなさを感じた。
		第2部と第3部の意見交換について、内容が重複することがあったため、事前回答の際にテーマの棲み分けができるようにしていただければよかったと思う。
進行（6）	保健事業支援・評価委員会（3）	ファシリテーターの方が上手に話を展開していただいたので、参加者の方々が、まんべんなく意見交換ができたと思う。
		現状の委員会の開催状況等々国保連合会からの発言をお願いしなければならない場面が多く、委員同士の意見交換の深まりが少なかったように感じ残念に思った。特に委員会の開催状況は中央会で一覧等にまとめていただき、事前に実態として資料提供いただけると時間も有効に使えたように感じた。
	国保連合会（3）	司会進行役を担ったが、司会としては意見交換の60分間という時間は長すぎず、短すぎずちょうど良かったと感じた。 事務職（国保連合会職員）が司会進行をしたので、少し型にはまった進行になってしまったのではないかと感じている。各県の先生方はもっと委員ならではの悩み等を委員同士で活発にディスカッションしたかったのではないかと感じた。
共通課題の認識（6）	保健事業支援・評価委員会（4）	各地域でも共通の悩みや課題があることがわかった。連絡を密にして、互いに対応を学び合えばよいと感じた。
		他自治体との共通する悩みや課題を共有することで、より具体的に自分の自治体を振り返ることができた。
	国保連合会（2）	各連合会とも、似たところで悩んでおり、それぞれの工夫点について聞かせていただくことができてよかった。 Webでの顔合わせでしたが、今後お聞きしたいことがあった時にも聞きやすいと思われる。
		どの連合会も３～５年と短期で担当者が変わる中で、試行錯誤して支援を行っていることが分かった。 他県の意見が聞ける場はとても参考になる。新しい意見や同じ課題等見えてよかった。
資料（2）	保健事業支援・評価委員会（1）	基本的な情報（保険者数、支援評価委員の構成など）については事前に資料等でいただけるとありがたい。
	国保連合会（1）	資料について、参加者が見やすいように作成をお願いしたい。余白が大きくあるのに文字がとても小さくて見にくく、特に委員の皆様に配布する分については読みやすいよう配慮をお願いしたい。

令和7年度「国保連合会保健事業支援･評価委員会」報告会（アンケート結果）

６．希望するテーマについて

※自由記載形式で回答のあった内容を集計作業にて分類し、代表的な意見の一部を抽出したもの。

主な意見・感想

分類	属性	意見・感想
好事例・実務ノウハウ（6）	保健事業支援・評価委員会（3）	糖尿病性腎症重症化予防における好事例の紹介。
		データヘルス計画と市町村の健康づくり計画の整合性を取り、連動して活動している事例。
	国保連合会（3）	市町村担当者の異動により引き継ぎが不十分であるケースや支援を希望しない保険者へのアプローチ等、共通の課題があるため、幅広く好事例を展開できると良いと思う。
		各連合会が実施している具体的支援について。 （個別支援・集団支援・書類支援なのか、使用する資料、ヒアリングの内容、委員会後の助言内容の評価方法について）
中間評価（5）	保健事業支援・評価委員会（2）	第3期データヘルス計画の中間評価に関してどのような支援を行ったのか。
	国保連合会（3）	中間評価を終えた後の支援・評価委員会としての方向性について。
		中間評価の保険者支援。
保険者ニーズ（3）	保健事業支援・評価委員会（3）	実際に支援を受けたことで参考にできた保険者の方のお話しを伺えると良いかと思う。
		「保険者が支援・評価委員会に求めること」 支援・評価委員会が保険者のニーズにより応えられるよう、保険者側の意見等について情報がありましたら、お伺いしたい。
関係機関との連携（3）	保健事業支援・評価委員会（2）	医療機関と行政との密な連携の方法。
		糖尿病性腎症重症化予防事業等における保健所の役割・巻き込み方について。
	国保連合会（1）	都道府県単位で保健所が組織的にかかわっているところがあれば、実施に至るまでの工夫や現状、課題についてお伺いしたい。
評価・指標（3）	保健事業支援・評価委員会（1）	結果を出すために最低限必要な要素(最も影響するものは何か)について議論して欲しい。
	国保連合会（2）	支援した保険者の次年度の取組状況（支援効果）の確認方法について。

その他 （4）	保健事業支援・評価委員会 （3）	AIの活用方法。
		アウトカムのとりにくい高齢者対策をどのように支援できるかお聞きしたい。
	国保連合会 （1）	リレートークの内容を結び付けて委員間で情報交換ができるように企画していただけると、充実したものになるのではないかと感じた。

令和7年度「国保連合会保健事業支援･評価委員会」報告会（アンケート結果）

7．その他、ご意見・ご感想について

※自由記載形式で回答のあった内容を集計作業にて分類し、代表的な意見の一部を抽出したもの。

主な意見・感想

分類	属性	意見・感想
プログラム構成・進行（5）	国保連合会（5）	委員及び連合会の情報交換時には、ファシリテーター的な存在が必要と思った。
		もう少し時間を短縮してできると良いと思う。
		委員の先生方にご協力いただくために、事務局でも事前準備が必要だと考える。情報提供だけの報告会であれば、資料提供でもよいと思いう。第1部で録画を見て、第2部の委員間の意見交換会、第3部の連合会間の意見交換会につながるように企画いただけると効果的なのではないかと感じた。
		第2部「意見交換」、第3部「情報交換」について 他県に聞きたい内容が重複することが多かったため、2部、3部を併せて開催してはどうか。
グループ分け（4）	国保連合会（4）	同規模の都道府県をグルーピングしていただき、大変参考となった。都道府県ごとに状況が違うため、自県での悩みが他県では悩みになり得ないことや、解決策が解決策になり得ないことがある。難しいとは思うが、各県の状況に応じたグルーピングはできないものか。（ex：ＤＨ計画が標準化されていない、支援・評価委員会活用保険者が少ない等々）
		グループに合った質問を考えたいため、グループ分けの方針（規模別、ヘルスサポート事業支援率別など）を事前にお示しいただけたらと思う。
		同規模の県同士だったので、情報共有がしやすかった。
事前情報の共有（4）	国保連合会（4）	各連合会によって支援形態・内容が全く異なるため、意見交換の際に理解が難しい部分があった。限られた時間なので、各県が支援・評価委員会としてどのような支援をしているかをまとめた資料があれば意見交換しやすいのではと感じた。
		第3部の連合会職員の意見交換に係る進行用資料も今後は準備いただけると助かる。
		意見交換前の事前回答がまとめられていたため、他県からの質問の回答を事前に準備できたのでよかった。

その他 （9）	保健事業支援・評価委員会 （5）	国保連合会の取り組みに関連する最近の動向や今後の見通しについての報告や、各県の取り組みに関する発表により、本県で取り組むべき方向性が一段と明確になった。ありがとうございました。
		第1部の動画配信は、ご検討いただきたい。 5分でコマーシャルが入り、集中して視聴できなかった。コマーシャルで途切れない配信にしていただくか、5分以内の動画となるように工夫していただければ幸いです。また、こちらのパソコン設定等の問題かもしれませんが、その対策を確認することができなかった。
		計画書の作成やデータ分析に関する講習会は各都道府県ごとに行われていますが、動画やAIを活用して全国で統一した物を作成して頂くと、効率化に繋がるのではと考える。また、市町村の担当者は、人事異動で0から学習しなければならない場合も少なくなく、模擬資料を用いた演習などをいくつかのレベル毎に用意していただき、段階的に学習できる様にして頂ければ助かるのではと考える。
	国保連合会 （4）	様々な専門領域の委員がおられるので、ご専門の立場からのご意見を伺いたい。
		情報交換会では、来年度の第3期データヘルス計画中間評価に向けて、それぞれの連合会が予定している支援や、使用する様式などについて意見交換をすることができ、次年度の支援に活かしていきたい。